

會學濟經學大國帝都京

叢論濟經

號一第 卷一十第

論 說

植民地の財政政策に就きて(一)……………法學博士 山本美越乃
 租税の限度に就きて(二)……………法學博士 神戸 正雄
 勞賃の經濟的及び道德的性質(三)……………法學博士 田島 錦治
 鎌倉時代の家族制度(六)……………文學博士 三浦 周行

時事問題

極東緩衝國建設の企圖……………法學博士 戸田 海市
 所得税の改正を論ず……………法學博士 小川郷太郎
 北米合衆國の排外的海運政策と我海運……………法學士 小島昌太郎

雜 錄

所得税に就て武藤氏に答ふ……………法學士 汐見 三郎
 米と社會政策(新著紹介)……………法學士 本庄榮治郎

附 錄

本誌第一卷乃至第十卷論題索引……………法學士 本庄榮治郎

極東緩衝國建設の企圖

戸田海市

一 其 性 質

露國過激派政府は極東方面に於て、諸外國就中我國との關係を圓滑ならしむる爲め、貝加爾湖以東の露領を緩衝地帯とするの企圖を有し、同地方の住民の大體の意向も之に傾いて來たと云ふことである。果して此企圖が成立すへきや否やは豫想し難い。否な更に遡つて緩衝地帯問題を惹起せる過激派政府の存続も疑問と云へるであらうか、若し緩衝地帯の成立を見るに至るとすれば如何なる性質のものとなるへきや、特に此地帯が統一せる露國の特別なる一地方として存立し得へきや、又は所詮獨立の國家としてあらざれば眞の緩衝的作用を爲し得ざるへきやの問題を第一に研究せねばならぬ。露國は勿論其の分離獨立を欲せず、成るべく之を特別なる行政區域とし又は少くとも之を保護國として自國の統制の下に立たしめんとするであらう。露國の過激派政府は舊帝政時代の露國の如く極東に於て帝國主義的發展を爲すの希望を有せざることば想像するに

難くないか、併し國家の獨立に必要なる公海に對する自由の出口を歐洲方面に於て塞かれた露國に取り、東部西比利亞は露國に取り殘されたる重要な出口であり、且つ西比利亞の開発に密接の關係を有する門戸であるから、此處に獨立の國家が成立して露國の門戸を塞くことを欲せぬであらう。

曾て露國は浦蘆斯德克を自由港とし、其後方一體の廣大なる地域をも自由貿易地帯として極東の開発を圖つたことがあるか、今日緩衝地帯を設けることは決して自由貿易地帯を設けるか如く容易なものでない。自由港は貿易關係に於ては其國の領土外に立つものであると形容せられるか、併し此制度は特別の手段に由り其地域内に本國と同様の社會組織を繁榮せしめんとするものであつて、本國と根本的に利害の衝突を生ずるものでない。而も尙ほ自由港は種々の點に於て本國に不便を生ずるものであるから、曾て此制度を本國領土の一角に認めたる歐洲諸國は次第に之を制限廢止するに至つた。然るに問題となれる極東緩衝地帯は露國に行はれつゝある社會組織とは根本に異なる組織を採るべきものであるから、到底其地帯の利害を露國と一致せしむるを得ない。故に眞に有效なる緩衝地帯を設けんとすれば之を獨立國とするの必要なことは、尙ほ歐露の國境に於て露國より分離獨立せる數多の緩衝國の場合と同様である。

露國が極東に於て諸外國との關係を圓滑ならしむる爲めに緩衝地帯を設けると云へば、何よりも先づ諸外國人をして從來の如く其地域内に住居して商工業を營むことを得せしむるを必要とする。特に諸外國は其地域内の富源開發事業を營むに付ては從來よりも一層寬大なる開放を露國に

要求するのである。露國の過激派政府の下に於ては重要な商工業の私營を禁して公營を行ひつゝあるか、苟くも緩衝地帯内に於て外國の商工業の閉鎖を命せず、依然として營業を繼續せしむることゝする以上は、獨り露國人自身に對して之を禁止するは無意義且つ不公平である。露國が極東に於て自國人に商工業を禁し、政府か之を營んで外國人と競争することも不能である。故に緩衝地帯内に於ては内外人を問はず財産の私有及生産の私營を許るるはならぬ。即ち緩衝地帯を設定することは有産者の支配する社會を建設することである。露國の有産者階級が緩衝地帯の設定を希望するは、其地域内に於て露國人にも過激派政治を行はざることを意味するからである。

此の如く緩衝地帯は社會組織の根本に於て露國と異なるを得ざるものであるから、露國に對して根本的の利害衝突を生ぜざるを得ない。例へば露國に於て虐待せられつゝある有産者は緩衝地帯に遁れ來らんとし、特に有ゆる手段を講じて今尚ほ隱匿しつゝある財産を極東に密輸出せんとするであらう。露國の智識階級は近來勞動者よりも幾分優遇せらるゝに至つたやうであるか、併し極東に遁れ出んとする者か決して少なくあるまい。未だ露國の如く社會主義を實行するに至らざるも、其實行の避け難き形勢を示せる獨逸に於ても、智識階級中の有爲なる者か盛んに諸外國に移住し、之か爲め獨逸は社會組織に最も必要の分子を失ひつゝあると云ふことであるか、東部西比利亞は本來露西亞人の國であるから、露國の智識階級が此處に移住することは、獨逸の智識階級が民族文化を異にする所の外國に移住する場合の如く、情に於て忍び難い所はない。此等の分子が來住することは緩衝地帯の歡迎する所であるか、過激主義に傾ける勞動者か露國より極東

に入り込むことに對しては、緩衝地帯が極力之を防遏せんとするてあらう。故に緩衝地帯と露國とは其間に高き牆壁を設けて互に他を排することゝなるを免れぬ。又此緩衝地帯は露國の通商の關門に當るから、中間に介立して露國貿易の利益を割取せんとし、之か爲めに露國と衝突することも避け難いてあらう。假令へ緩衝地帯が露國に對して好意を有するものとしても、自己の財政を維持するか爲め此の如き舉に出つることを免れぬてあらう。此地帯内の面積は可なり廣大であるとは云へ、人口の少なき未開の地であつて、其經濟的意義の過半は歐亞兩大陸に跨れる全露國の門戸として生し來るものである。故に緩衝地帯に於ける有産者が發展せんとすれば、西比利亞全體に於ては勿論、歐露に於ても自由に活動せんとするの要求が自然に起るのであるか、此要求を充たさんとすれば全露國に過激主義の實行を廢止せしめねはならぬ。即ち過激派政府を顛覆せねはならぬ。緩衝地帯内に於ては有産者と無産者との衝突が激烈に行はれることを豫期せねはならぬか、無産者にして其志を達せんとすれば露國の後援に由て緩衝地帯の制度を顛覆するの外はない。然るに極東に於ても露國の有産者は革命以來非常の壓迫を蒙つて、今日は最早や労働者に對抗するの力が甚た乏しい。故に彼等は外國の援助に依頼して緩衝地帯の制度を維持せんとするに至るてあらう。特に注意すべきは極東露領は露國の東方の出口として重要であるか、土地の開拓は甚た幼稚であり、従つて過激化せる都會労働者か其人口の大なる部分を占むるに反し、過激派反對の傾ある農民の人口が割合に少ない。此點より見るも極東緩衝國の自立能力は甚た乏しいと云はねはならぬ。

歐洲方面に於ても露國の境界の殆んど全線に亘り、即ち北方の芬蘭を初めとして白露西亞、波蘭、小露西亞、コーカサス地方に數多の小國が分離獨立し、何れも緩衝國の作用を爲しつゝあるが、此等の諸小國は人種民族言語等に付て露西亞本部と多少の相違を有し、従つて或程度に分離獨立する根本力を備へて居る。故に英佛等か此等諸小國の分立を援助する干涉策の當否は別として、其分立は全く不自然であるとは云はれない。之に反し極東緩衝國は何等自主獨立の根本力を備へざるものであるから、之をして單に名義的たるに止まらしめず、眞に緩衝國家たるの作用を爲し得るものたらしめんとすれば、外國の援助に由るの外はないのであるか、今日之を有効に援助し得るものは我國の外にはあるまい。我國の西比利亞撤兵の遲延は各國より猜疑の眼を以て視られ、日支の關係も之か爲めに益惡化せられた。國際勞動會議に於て我國は諸大國の有産者無産者双方より勞動者虐待國なりとの惡名を受けたか、更に目下の西比利亞武力干涉策に由り各國の勞動者階級をして日本は世界勞動者の敵なりとの批難を下さしめんとしつゝある。我國に對する諸外國の批評には随分誤つた點もあるか、我國が世界各方面よりの批難を冒しても、此際是非極東緩衝國を建設すると云ふか如き干涉策の必要か存在するや否やは大に考へねばならぬ問題である。

二 其 利 害

論者が極東緩衝國の必要を主張する論據には經濟上のものと國民思想上のものとかある。先づ經濟上の必要論に付て見るに、東部西比利亞は我勞動者の移住に適する地方ではなく、其經濟上

の意義は貿易と投資起業就中其富源開發の事業とに存する。露國が極東にも過激派政治を行ふて貿易及少くとも重要な内地商業を公營とし、又少くとも農業地以外の土地を國有として鑛業林業等を公營とするときは、我商工業者か今後東部西比利亞に入り込んで活動することを得ざるのみならず、多年の苦心に由て建設したる諸事業をも閉鎖して退去せねばならぬ。之に對して財困窮の露國より賠償を得るの望も立たぬ。故に我商工業者か此地方に入り込んで活動せんとするは、過激派の支配外に立つ所の緩衝國を必要とするのであるか、吾々の問題とする所は緩衝國建設に由り我商工業者を此地方に入り込ましむること、此地方をも露國過激派の支配下に置き、我國か此過激派政府と經濟上の交通を爲すこと、の何れか利益なりやの點である。

我商人か東部西比利亞に入り込んで地方住民を相手とする商業を行ふには緩衝國の存在を必要とするか、元來此地方は人口が尙ほ稀薄であるから、之に對する商業も左まで重要のものではない。既に述べし如く此地方の商業は全露西亞に對する門戸として一層重要なものであるか、極東にも過激派の支配を認むること、すれは全露國に對する通商の門戸か浦蘆斯德克に於て開かるゝに反し、極東緩衝國を建設すれば此門戸か貝加爾湖畔まで後退するの結果となる。何れにしても通商の相手は過激派政府であるか、緩衝國を設けて其領土内を通過しつゝ貿易を營むときは、何等かの形に於て常に緩衝國維持の費用を負担せねばならぬ。故に全露國を相手とする通商には緩衝國の存在は却つて不便不利である。故に若し緩衝國の必要かありとすれば、其は主として其地域内の富源開發事業の爲めに投資起業を行ふの自由を得ることに在りと云はねばならぬ。然るに

緩衝國建設が果して能く此目的に合するやは實に大なる疑問である。

東部西比利亞の富源にして外國の投資起業に對し最も重要なものは漁業鑛業林業等であるが、此内の漁業は既に多年日露漁業條約の下に我漁業家と漁夫との力に由り盛大に行はれて居る。併し此漁業問題を解決するには必しも緩衝國を必要としない。之を必要とするは深く内地に入り込んで經營することを要する鑛業林業等であるが、此等の開發事業に最も必要のものは低廉なる勞働である。露國の富源を開くには最も多く露國労働者を以てすることが自然の方法であるが、併し過激思想に傾ける露國労働者をして我資本的勢力の下に従順に勞働に従事せしむることは至難の業である。特に緩衝國が存在して其區域内の労働者か露國本部に於けるか如く社會的地位を高められさることは、一に我國の兵力干渉の結果であると考へて居る露國労働者か、我資本的勢力に對して反抗することの甚だ強烈なるを豫期せねばならぬ。故に其富源開發事業は主に外國労働者の移入に由て之を行はねばならぬのであるが、我資本家か多數の外國労働者を移入して露國労働者の地位を奪ふことは、如何なる階級の露國人に取つても甚だ不愉快なことに相違ない。故に外國労働者の移入は必しも平穩無事に行はれ得るものと云ふを得ないのであるか、我國の利害より打算して如何なる外國労働者を移入すへきやと云ふに、我國の労働者は必しも國內に過剰を生じて居らず、又之を西比利亞に送つて勞働せしむる爲めには多大の費用を要し、之に由て有利に富源開發を行ふことは困難である。加之我労働者は近來急速に思想の變化を生しつゝあるから、之を多數に西比利亞に送るときは必らず露國労働者の過激化運動に感染する者を生ずる。總て外國勞

勤者を此地方に移入して露國労働者の地位を奪ふときは、露國労働者は之に報復する爲めにも極力移入労働者の過激化に努めることを豫期せねばならぬのであるか、日本の資本的勢力に反抗する爲めには特に其過激化運動が強烈となるてあらう。

我労働者の代りに朝鮮支那の労働者を移入しても略は同様の困難が起らざるを得ない。朝鮮労働者は既に多數に東部西比利亞に移住して朝鮮獨立運動に従事し、近來は其の少なからざる部分か露國の過激派労働者と團結して日本の兵力干渉に反抗し來つたのであるから、此上新たに朝鮮より労働者を移入すれば、先住者たる彼等の同胞が怒ち之を反日本的運動に引入れる危険がある。東部西比利亞が我國に取つて危険なりとせらるゝは實に此地方が朝鮮獨立運動の策源地となるからであるが、我國が露國労働者の地位を壓迫する制度を援助し、又此地域に多數の朝鮮人を移入することは、此危険を益増大するの愚擧である。故に外國労働者を移入することすれば、支那労働者を選び、最も安全且つ經濟的である。併し支那労働者も今日は強く排日思想に感化せられて居るから、彼等が露國労働者の誘惑に動かさるゝの危険も大である。元來多數の支那労働者が露國に入つて過激化することは、下層民の過激化の危惧せられつゝある無秩序の支那本國の爲め、又支那に投資起業を爲さんとしつゝある我國の爲めにも危険である。吾々は從來西比利亞の富源に關する利權の獲得に熱中し、露國の有産者や舊官僚と結托して過激主義の東漸に反抗しつゝある我國の人々より、其利權獲得の甚だ有望なることを説明せられるのであるか、彼等に對して今後安全有利に其富源開發事業を行ふに如何なる方法を以てするやを反問するときは、其

答辯は雲を攫むか如き空漠たるものであることを常とする。

曾て本誌に於て論じた如く過剰の天然資源を包蔵する國が其開發を民業に許るときは、其開發者は國の内外を問はず、最も天然資源の缺乏を感じ、從つて最も高價を提供する市場に對して之を供給する。故に我國の如く天然資源の缺乏に苦しむ國にも比較的公平に其資源の分配が行はることゝなるか、若しも資源領有國か之を國有として自國に必要とする丈けつゝ開發し、又外國供給の爲めに開發することゝしても、自國か之を使用する場合よりも高價に之を外國に賣り付ける方針を探り即ち富源の閉鎖獨占主義を行ふたならば、我國の如き小國は生存を脅かされる場合が生ずるであらう。併し乍ら我國に於ても夙に鐵道國有を行ひ、又近來は少くとも石炭水力石油等の動力を國有とすへしとの説か有力となりつゝある有様であるから、諸外國か其領土内の天然資源の國有を行ふこと自身に對して無條件に抗議するを得ない。只た過剰の天然資源を有する國に對しては其の國有たるを私有たるを問はず、成るべく公平に之を諸外國にも利用せしめ、以て天與の富源を全人類の共同生存の爲めに利用する主義を認むることを要求し得るに止まるのである。他の國の場合も兎も角、現時の露國か極東にも過激派政治を行ふて其地方の富源開發を國營とする場合に付て見るに、露國は成るべく充分に之を開發して外國に供給し、以て其の必要とする物資を外國より輸入するの必要に迫られて居る。今日の如き露國の混沌窮乏の狀態か久しく繼續すれば過激派政府は民望を失ふて自滅するの危険がある。故に過激派政府は財政經濟の恢復に非常の苦心を爲しつゝあるから、極東を其支配下に置くことゝするも、其區域内の天然資源の

閉鎖獨占を行ふて我國を害するの危険は少なく、寧ろ我國より資本と技術者とを供給すれば喜んで開發事業を行ふてあらう。要するに露國民衆の意思に反して我國か西比利亞の富源開發を行ふことは不能又は不利であつて、露國人の好む所に従つて之を開發せしめ、又彼等の好む所の方法に由て我國より之を援助するの外はない。恐らく現在の露國は天然資源を開發して之を外國に供給することに付ては、排外保護に熱中したる舊露國よりも一層寛大であらう。少くとも一層寛大なるの必要に迫られて居るのである。

極東緩衝國必要論の他の一論據は、之に由て我國を初め朝鮮支那等に過激思想の傳播することを防止し得へしと云ふのである。露國に行はれつゝある過激主義なるものは各國の思想界に於て熟知せらるゝ社會主義の不完全なる實行の企圖であつて別段に新しきものてなく、従つて緩衝國を設けて思想の傳播を防ぐと云へば、彼我人民の接觸に由る人的感染を防ぐことか主となるのであるか、此目的の爲めに緩衝國を設くるは自殺的であることか以上述べた所に由ても明白である。極東に緩衝國を設けて我國や朝鮮支那より多數の勞働者及中産階級を此處に入り込ましむることは、即ち過激主義の宣傳を受くる爲め故らに彼等を送り込むことに外ならぬ。國內に於て時勢後の思想取締りに熱中せる我當局者の中に、極東緩衝國を設けて我國民と露國過激派との接觸の途を開くことに努力せる者の存在するは不思議である。從來露國の過激派政府か多大の國力を費して過激主義を諸外國に宣傳せんとしたのは、諸外國か過激派政府の壞倒運動に熱中せる爲め、自衛上已むを得ずして行ふた戰鬥手段であつた。露國自身には實行せさるか如き過激の手段をも

外國に對しては盛んに宣傳する傾向のあつたことも、之を戰闘手段として見れば怪むを要せぬ。諸外國が露國の自主自由を尊重し、一切其内政に干渉せざる方針を採つたならば、過激派政府が其の焦眉の急とする秩序の恢復と經濟の復興とに必要な貴重國力を割て、之を諸國に對する宣傳に費すか如き愚擧を敢てするものであるまい。英佛諸國は今や露國過激派を抑壓することか、自國の勞働運動の氣勢を挫く力なく、却つて益之か險惡ならしむるの愚策であることを覺りつつあるか、同時に露國も亦外國に過激主義を宣傳することか國內に於て其主義の實行を容易ならしむるに何等の効果なきことを覺りつつあるやうである。現に英國勞働者の一部か露國に入りて過激派政治の實況を視察し、其の理想とする所に及はざるの甚しきに失望しつゝあると云ふ報道も傳はつて居る有様である。

極東緩衝國の建設か諸外國就中日本の兵力干渉の爲め已むを得ざる讓歩として行はれたものであるとすれば、此緩衝國の有效に成立する限り露國政府又は露國の無產者階級は正當防衛として我國に對し過激主義の宣傳に努力するかも知れぬ。露國過激派は最初幼稚なる自國の民衆に對し空想的の計畫を實行せんとしたか、其後失敗の經驗に由り次第に着實なる建設の方針を採りつゝあるやうである。故に諸外國か兵力干渉、緩衝國の分離、經濟的封鎖の如き干渉策を行はず、之を露國民の自由に放任するならば、露國の建設事業も早く成功し、其れだけ世界一般も露國の動搖より來る所の物質的及精神的損失を早く免れることとなるてあらう。或は世人の往々論する如く露國の建設事業は現過激派政府に不能となり、別種の主義を標榜する新しき政府の手に由て行

はれることゝなるかも知れぬ。若し果して然りとすれば一日も早く適當の新政府の成立することか必要であるか、外國の干渉策特に露國の領土を割て緩衝國を建設するか如き干渉策は此點に付ても寧ろ有害である。何となれば外國干渉に依頼する分子は露國民衆の蛇蝎視する頑冥の寄生蟲的分子が主であるのみならず、諸外國か露國の領土を割て緩衝國を設くることに由り其區域内の經濟的利益を支配せんとするときは、露國有力者にして過激主義に反對する者の中にも愛國心よりして過激派政府の爲め一身を捧げて外國の侵略干渉を反抗する者が生じ、之か爲め論者の想像するか如く當然壞倒すへき過激派政府か壽命を延ばすこととなり、従つて其丈け露國の復興建設か遅れて諸外國に不利を與ふることゝなるからである。吾々は茲に過激派政府の過激主義宣傳の問題を取扱ふた序を以て一言我國民の反省を促かすの必要を感ずる事柄がある。其は即ち思想界の一體に文治主義に傾きて武力を賤視する所の支那の統治に關し、我政府か歐洲戰爭中支那の北方軍閥を援助したことを以て、支那の思想界の一部は日本か國力を以て武斷主義の實際的宣傳を支那に行ふたものと認めて居ることである。尙ほ過去に於けるか如く將來に於ても我國の思想界を動かす源泉は露國ではなくて歐米先進國の思想である。又吾々は今後朝鮮の獨立運動か次第に有力となることを豫期せねばならぬか、過去に於て此運動を助長した最大の外力は東部西比利亞亡命の朝鮮人團體ではなくて米國宗敎家の敎化事業であつた。支那人の排日思想を助長したのも露國ではなくて英米の力であつたことを記憶せねばならぬ。

以上に由て見れば極東緩衝國は我國の兵力に訴へてまでも建設せしめねばならぬ程の必要かあ

るものでない。露國が極東にも過激派政治を行ふて商工業を公營とするときは同地方在住の我商工業者は退去せねばならぬのであるか、我政府が今尙ほ同地より撤兵せざる理由か、同地在留の商工業者の生命財産の保護に在りと云ふ以上は、我國民が飽くまで同地に留つて營利事業に従事することを主張するものであり、従つて露國が同地方に過激派政治を行ふことに兵力を以て反對することを意味する。故に露國が極東緩衝國を建設するのは我國の兵力干渉を免るゝ爲め已むを得ざるの讓歩と解せらるゝことが當然であるか、併し我國が速かに撤兵すると否とに係はらず露國が自發的に極東緩衝國を建設するの意思を有することか否かは云はれない、既に述べし如く露國の混沌窮乏の狀態が久しく繼續するときは過激派政府の自滅を來たす危険があるから、露國と諸外國との經濟的交通を圓滿にして其財政經濟の恢復を早める爲め極東緩衝國を建設するの有利なることを認めて居るかも知れぬ。特に歐露境上の緩衝國の分離獨立は民族言語等の相違に基づくから、永久に露國との利害が一致せざるの危険あるに反し、極東緩衝國は此の如き危険がない。故に少くとも一時の便法として露國が自發的に極東緩衝國を建設するの意思がないとは云はれない。若し露國にして此の如く自發的に之を建設するものとすれば、吾々か之に反對するの理由なきことは勿論である。只た此場合に於ても極東露國人の一般意見が一致して、緩衝國を建設せんとする露國過激派政府の希望を充たすに至るべきやは疑問である。

極東緩衝國か露國過激派政府又は極東露國人一般の自發的要求より起つたものであるとすれば吾々は其獨立と自由とを尊重せねばならぬのであるか、既に述べし如く此緩衝國には激烈なる内

争の起ること、恰も支那に於けると同様の状態となるの危険がある。故に我國の之に對する政策は極めて公明でなくてはならぬ、即ち其内政に干渉するの不可なるは勿論、我國は之に對して何等の排他的優越權の獲得を主張してはならぬ。又内争の危険大なる此緩衝國は支那と同しく外債に由らされは之を維持することは困難となるであらうか、各國が抜け駆け的に其借款に應じて利權獲得に奔走することは、支那の場合と同しく其内争を益激成し且つ東洋の平和を攪亂するの原因となるから、諸大國の共同借款制度を採るべきことも支那の場合と異らぬ。西比利亞に對する此種の政策は既に本誌に於て對支那政策と併せ論じた所であるから、茲に重ねて之を論ずることを避ける。

三 露西亞の社會革命

極東緩衝國の必要を主張する論者の多くは、先づ露國に行はるゝ如き過激主義が民衆の幸福と社會の進歩の爲めに總ての國に取つて不適當であり、従つて露國に於ても早晩自滅すべき運命を有するものであると前提し、其故に露國の一部を割て過激主義の侵入せざる緩衝國を設けて置くことは、露國の過激主義の當然の衰滅を早める作用を爲すものであり、従つて之を設けることは獨り諸外國の安全を保つに必要なものみならず。露國の爲めにも必要なりと結論するやうである。假りに此前提が正しきものとしても其結論の誤れることは既に述べた如くであるか、吾々は更に此前提に付ても考へねばならぬ。論者は第一に露國が現に實行しつつある過激主義の如何なるも

のなりやに付ては、世人一般と同じく明確の智識を有たぬやうである。第二に露國が現に實行しつつある政策か他の文明國に不適當なりとするも、何故其の露國にも不適當なりやの論據か明かでない。過激派政府は失敗の經驗に由りて既に再三其根本政策に重大の變更を加へたやうであつて、今後必要の前には更に其變更を餘義なくせらるゝこともあらう。總て此の如き發展は之を露國の自由に任かすことか、露國の爲めにも又諸外國の爲めにも利益である。然るに諸外國か露國の現政府を倒して無能と腐敗を以て有名なりし露國の舊官僚有産者を援助せんとするは甚だ誤つて居る。特に英佛の諸國か獨逸に於て反動的復辟的運動が起れば極力之を鎮壓せんとするに反し、政治的能力低く且つ距離の遠き露國に對しては反動的勢力の援助を爲すか如き矛盾を敢てすることは何故であるか。我國か英佛外交の實質に倣ふて露國の反動派を抑ゆると同時に獨逸の反動派を助くることの無用なるは勿論、今日の如く我國か英佛の對露外交を表面的に其儘襲踏することも無意義である。今日我國を初め各國に於て露國に關する報道に對し甚しく手心を加へて居るから、吾々は到底露國の真相に付き精確の智識を得ることか出來ないのであるか、此の如き政策は往々にして自殺的結果を生ずる。即ち公けにすることを許るされた報道か眞實であつても、尙ほ世人をして露國の真相か一層好良なるものであり、特に下層民に取つては樂園であること云ふか如き想像を畫かしめ、一面に諸外國か露國に不利の報道のみを傳ふるときは露國も自衛策として反對の虚偽的報道を世界に傳へんとすることゝなるてあらう。

今日まで露國に關して世界に公けにせられた報道の中で信用すべき理由あるものを綜合すれば

大地主の所有地を農民に分配し、否な多くの場合には農民が一揆を起し、大地主の莊園を襲ふて其所有を分捕りすることを認容し、之か爲め實際に露國の農民は概ね相當の土地を經營する自作農的性質を有するに至つた。寄生蟲的の大地主を除て一國の農業を自主的勞動者と云ふへき自作農に由り經營することは、生産増加より云ふも將た社會政策より云ふも一般文明國の理想とする所であるか、只た露國は其實行の手續として破壊的な革命を採つたのである。露國は農業國であつて其人口の八九割は農民であるから、過激派か採る所であると云はれる國家社會主義又は集産社會主義は現に人口の大部分に對して實行せられざるのみならず、將來も之を實行することは困難であらう。此の如く人口の大部分を占むる農民に對しては嚴正に政府の主義を實行し難きのみならず、農民の感情は都會勞動者を基礎とする過激派か傾く所の唯物的思想と調和し難く、此事は特に宗教に關して著しきやうであるから、過激派政府の壞倒是農民の積極的又は消極的反抗に由て起るであらうと論ずる者が少なくない。併し過激派政府は保守派の實行するを欲せず、又進歩派の實行するを得さりし有害無益の大地主制度廢止を斷行し、所謂土地の飢饉に苦しむたる歐露農民の地位を一變したものであるから、農民は大地主制度を復活するの危險ある保守的政府の再興を希望する者ではあるまい。多年屈從に甘んじたる宿命論的の農民の間にも革命は大なる思想の變化を生じたであらう。只た農民の地位か向上し其思想か進歩するに従つて以前の如く其生産物の大なる割合を出して寄生的政治都市を養ふことを欲しない。故に露國全體の維持に必要な程度に其生産物を提供せしめんとすれば、之に對して過激派政府は其配下の勞動者と共に農民の必

要とする工業品を盛んに生産し輸入して之を低廉に提供せねはならぬ。然らざれば農民は其生産物を隠匿し、又結局は自家需用以上の生産を爲さざるることとなる。然るに若し労働者か生産能力の低きに係はらず妄りに高き生活を營まんとするれば農民に有利なる工業品提供か行はれない。勿論露國か其需用する工業品の全部を自から生産することは不能不利であるから、政府は外國と通商を開き農民より得たる生産物を以て有利に外國工業品を取得し、其の大なる部分を更に農民に提供して其農産物を得ることを必要とするか、若しも政府の維持と労働者の生活との爲めに多大の費用を要し、特に其政權を安固にする爲めに多大の赤衛軍を養ふことを要し、又外國と事を構へて巨大の戦費を要するときは、農民に對して充分の工業品を提供することか不能となるのみならず、之に對して甚しき誅求を行はねはならぬ。現時の如き混沌状態か永く繼續するときは過激派政府は先づ農民の信用を失はねはならぬ。是れ過激派政府か外國と平和を希望し、之と通商を欲し、又工業の生産力増進に苦心し、之か爲めには外國の資本と技術とを要求する所以である。過激派政府か其主義を實行しつゝあるは都會と商工業とに對してある。先づ工業の方面に於ては小規模の手工業は兎も角、重要の大工場は總て之を國家に沒收して公營とし、又物資配給事業も重要なものを國營とせる外に、産業組合を其支配下に置きて汎く諸地方の取引をも管理し、多少の例外あるも大體に商業の私營を禁する方針を探り、外國貿易は諸外國の經濟的封鎖の爲め未だ圓滑の實行を見るに至らざるも、之を國家の手に由り又國家の管理の下に産業組合か經營して私營を禁する方針である。資本主義の擡頭を防かんとすれば此の如き政策を探ることか必要と

なる。更に國家の事業經營の方針を見るに、最初は軍隊に於て士官の擧任を兵士の自治に任し、報酬は總て畫一平等とした如く、工場に於ても労働者の共同自治を行ふたが、其結果は甚しき失敗に終り、近來は軍隊にも工場にも上下の階級を設けて命令服従の專制主義を探り、又報酬にも大なる差別を設けることとし、之に由て幾分か生産の結果を良好ならしめた。此外政府は其銀行に於て利子を附して人民の貯蓄を奨励することとしたから、今日人民は労働の報酬の外に節儉貯蓄の報酬をも受け得るに至つた。大なる私有財産は概ね没收したから、政府の命に由り労働せざる者には生活資料を供給せざる制度即ち働かざる者は食ふべからずと云へる制度が可なり況く労働強制の效果を生しつゝあるか、此外時として直接に勞役を賦課する方法をも行ひつゝある。要するに露國が商工業の方面に行ひつゝある社會主義は世人の評するか如く個人資本主義に代ふるに國家資本主義を以てしたと云ひ得べき有様であり、従つて産業自治の主張に傾ける先進國の労働者は必しも此の如き善意の專制に満足するを得ないであらうか、併し幼稚なる露國に取つては己むを得ないことであらう。露國の有産者は頗る能力の低き者であつて、從來商業の多くは高利的の猶太人や外人に左右せられ、工業の重なるものは五割十割と云ふ法外な保護税に由て成立し、特に外國の資本と技術者とに依頼する所が多く、従つて露國の有産者は他の文明國に比して最も存在理由の薄弱な者であつた。最も露國の官僚も無能と腐敗とを以て有名なりしことは其有産者と同様であつたか、若し今次の革命に由り政治界の人物と空氣とを一新し得たならば、其手に由て商工業を國營とすることか必しも舊有産者の私營復活に比して劣るとは云へぬであらう。

固より過激派政府の經營に於ても外國の資本と技術者事務家との援助を得されば、露國の經濟の維持の困難なることは以前と異らぬやうである。元來露國人は實行能力を缺くことが特色であつて、戰爭前には獨逸分子が社會統制力の大きな部分を握つて居たことか、露國人の社會聯帶感念を傷くること少なからざるの弊があつたと云はれて居る。然るに革命以來猶太分子が社會統制力を次第に掌握するの傾向が現はれて居ると云ふことである。此事が若し事實とすれば矢張り露國人の社會團結心を弱め同時に其政府は舊時代の如く強權的となるの危険があるであらう。

露國の社會が今や革命の爲めに混沌狀態に陥つて居ると云ふことは正當であるか、併し露國社會の混沌とは何を意味するやを一考せねばならぬ。既に述へし如く廣大なる露國の人口の八九割は殆んど自給自足的の生活を營む農民である。彼等は都會に於て革命が起つても又交通が杜絶しても大した不便なく生活し得る者である。秩序が紊亂して饑餓と疫病と又往々掠奪とに由り生存を脅かされて居るのは都會に集つて商工業や政治や學藝に従事しつゝある者に限られて居る。此事たるや十九世紀に於て西歐諸國が政治革命の爲め一時秩序の混亂を來たした場合に、國民の大部分が生存を脅かされなかつたのと同様である。然るに今日の先進國に於ては人口の過半が都會に集つて文明的事業に従事し、加ふるに地方農民の日常生活も都會と極めて密接の關係に於て支へられて居るから、容易に革命を起して秩序を紊亂せしむるを得ない。若しも今日モスコイやペトログラードに於けるか如き混亂が、英國に於て倫敦其他の大都市に起つたならば英國全體の滅亡を來たさざるを得ない。然らば何故に露國に於て革命の爲めに都會生活又は文明生活か混沌狀

態に陥つたかと云ふに、總て都會に於ける生活は多數人の協力に由て維持せられて居る。其協力者を大別すれば頭の労働者と手の労働者との二種となるか、革命に由り両者の協力が圓滑に行はれなくなつたことか、秩序紊亂の最大原因である。即ち手の労働者は精神上物質上平等の人格者として協力を爲さんと要求するに對し、頭の労働者は不平等者として協力することを主張し、此主張の一致せざる爲め両者の協力の全部又は一部が破壊せられ、從つて両者の圓滑なる協力に由て支へられたる一般の文明生活が破壊せられたからである。過激派政府は両者の協力を恢復する爲めに再び或程度に精神的及物質的の不平等關係を認め、之に由て幾分か建設的に進み得るに至つたやうであるが、併し此の如き不平等を認めることか眞に社會的平和即ち両者の自發的協力を久しく維持し得るや否やは疑問である。

現代社會を支配する所の資本主義なるものは經濟上の力に由る專制主義であるか、汎く世間に對して專制を行ひ得る程の資本を所有する者は幾萬人に一人と云ふ少數に限られて居る。此の少數者が各自に偉大なる能力の所有者であるとしても、尙ほ其單獨の力に由て覺醒したる民衆に對し專制を行ふことは不能である。況んや彼等の少なからざる部分は相續や盲目的投機其他の偶然に由て資本所有者となれるに過ぎざる凡庸者であるから、獨立して專制者となるの力はない。今日資本家が專制を行ひ得る所以は多數の頭の労働者即ち智識階級が其周圍を取り巻き、互に利用せられて支配者階級を組織することに由り、手の労働者即ち民衆に對し專制を行ふからである。古へ宗教が社會の統制力として重要なりし時代には、頭の労働者が大小種々の法王を守

り立て、宗教上の専制を行ひ、更に政治が主要の統制力となりし時代には同様に政治上の専制を行ふたか、近世に至りて商業が發達し、特に産業革命が行はれて經濟が重要な統制力となつて以來、智識階級が資本家を守り立て、資本主義と云へる經濟的専制を行ふに至つたのである。故に今日社會的平和を確立する爲めには何よりも先づ智識階級の覺醒を必要とするのであるか、併し智識階級も弱點多き人間であるから其覺醒を促かすには外部よりの刺戟又は強制力の存することか必要である。此強制力は即ち労働者の社會運動に外ならぬのであるか、今日は此強制力か尙ほ多數の方たる性質を脱せず、従つて外面的の方たることを免れないから、智識階級をして衷心より労働者の地位を尊重せしめ、其全力を注いで之と協力を爲さしむるには不充分である。手の方に由り頭の力を支配することは不能である。智識階級をして労働者と對等者として最善の努力を爲さしむる爲めには、労働者自身の頭の方が更に大に進歩し、以て彼等の社會運動をして單に多數の方たる以上に精神的勢力たらしめねはならぬ。露國の社會革命の前途は豫想し難い。或は全く失敗に終るかも知れぬ。只た以前の露國は民衆を愚にするの方針を探り、國民教育にも甚た不熱心であつたか、過激派政府は其建設的事業として何よりも教育の普及向上に努力しつゝあると云ふ報道が眞實であるならば、過激派政府は社會問題の最も重大事に付て正しき途を探つたものと云はねはならぬ。